

2020年(令和2年)6月17日(水) 第33回例会(通算2873回)



今月のロータリーレート1\$=108円

2019-20年度 ◆クラブテーマ◆

【原点回帰】

会 長：橋本 孝来 副会長：森田 安高

幹 事：大田 次男 副幹事：東上里 和広

地区ガバナー：新本 博司氏 奉仕の実践/平和で明るい未来

今週の御嶽の紹介 世持御嶽(ユームチオン) 竹富島

島の年中行事のうち、四月大願、西塘祭、結願祭、九月大願、種子取祭が、ここを中心に行われます。なかでも種子取祭は、五穀豊饒と島民の繁栄を祈願して行われる竹富島最大の行事です。祭は10日間続き、古くから伝わる舞踊や狂言などの奉納芸能が神への感謝をこめて行われます。竹富島をもっと深く知りたい人は、是非こうした行事に合わせて島を訪れるのがよいでしょう。

世持御嶽は、竹富民芸館の北側にあります。



6月10日(水)例会報告

《司会進行：松尾 和彦》

ロータリーソング : 手に手つないで 四つのテスト

ソングリーダー : 上勢頭 保

メークアップ : 宮良 薫 上原 晃子 仁開 一夫

宮良 榮子 新垣 精二 大濱達也

会 員 総 数	47名
出席義務会員	46名
出 席 数	33名
欠 席 数	13名
出 席 率	71.73%
通算出席率(2月)	59.85%

★6月のプログラム 6/17(水)会員フリートーク 6/24(水)納会(夜間例会)

例会日 水曜日 12:30~13:30
例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4

TEL/FAX(0980)83-2917
URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>
E-mail ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp

◆◆◆会長挨拶：橋本 孝来◆◆◆



皆さんこんにちは。先日は凄い大雨でびっくりいたしましたけれども、影響あった方がいらっしやいましたらお見舞い申し上げます。本日は轟さんようこそお越し下さいました。引き続きよろしくお願ひいたします。今日は、卓話を石垣さんをお願いをさせて頂いていまして、コロナのせいで再三に渡って予定を頂戴いたしました。本当にありがとうございます。八重山の祭祀・儀礼についてということで心引かれるテーマでお話ししていただくことになっております。よろしくお願ひいたします。最近ではコロナの話ばかりで申し訳ないですけれども、会員から質問がありまして、関東の方に行った場合、出席はどうなるかというような質問をいただきました。石垣 RC はスタンダードなルールとしてアラートが出されていない地域で何とか例会を参加して頂くというふうにさせて頂いています。通常コロナウィルス感染症は、感染してから5日から7日の間で症状が出てもちろん無症状の方もいるわけですが、感染して5日目、前後プラス2日間くらいは感染力があるんじゃないかと言われておりますので、例会場がクラスターではないですけれどもそういう場になっては、地域も成り立っていないこととなりますので、実質的に1回例会を自粛していただくパターンいいのかなというふうに思いますので、そういう認識でお願ひいたします。先週から例会が再開できてとても喜んでおります。こういう状況が続くことを心から願っています。

◆◆◆幹事報告：大田 次男◆◆◆

皆さんこんにちは。先週の例会終了後にロービーでロータリーアンバッチが拾い物で届いております。これはマグネットタイプです。事務局に預けておきますので、皆さんご確認お願ひいたします。もう6月に入り今年度も終了となりますので、次年度の活動報告については、各委員長が責任を持って事務局のまで報告をお願いします。また今年度の活動報告を各委員会事務局のへ今月中に提出をお願いいたします。先週の理事会で理事の皆さんにはご説明いたしました。会員の会費を納入して頂いていますが、6000円の重複振り込みがあります。振り込み元も石垣ロータリークラブとなっております。会員のどなたかが重複して支払っているのではないかとということで、未だどなたが振込したか分かっていません。その6000円につきましては、今年度の活動費として一旦入れて置いて、重複支払いが分かり次第、返還するという取り扱ひをすることとなりました。再

度重複して振り込んでいないかの確認をお願いいたします。

◆ビジター：轟 一盛 様(那覇東RC)◆

こんにちは。今回参加させて頂きましたので、自己紹介を兼ねてご挨拶させていただきます。私の出身は、奄美の沖永良部島という離島の出身でございます。そのあと熊本の本の学校へ行ってその後東京で30年間生活しておりました。縁あって3年前から那覇の方に行きまして、現在は社会福祉法人「偕生会」という老人ホームとか保育園、そういった福祉関係の事業に携わっております。沖縄に来てからロータリークラブに参加しましたので、ロータリアン歴は約3年でございます。本日、お邪魔したのは西表島に「南風見苑」という特別養護老人ホームがあります。一昨年までは、石西会という社会福祉法人が運営しておりましたけれども、昨年の4月に偕成会に吸収合併し今は偕成会が運営しております。前任の苑長がもともと那覇の出身で、今年の春に退任するというので、私が今年から西表島の方に単身赴任いたしました。那覇東RCには席を置いたままですが、今後こういった形で石垣 RC の方にもお邪魔させて頂いて皆さんと親睦を深めたいと思っております。コロナで老人ホームが今どういった状況なのかぜひ皆さんにも知っていただきたいと思っておりますので簡単にお話しますと、幸いにも職員、事業者、ご家族の方にコロナに感染は発生しておりません。穏やかに皆さん過ごされております。25名入居されておりますが、5名が石垣出身の方です。西表島ということで少しだけ課題があると思っておりますのは、やはり職員が不足しているなどというのがあります。古い施設ですので、消防の点検とか改修とかの業者さんも島の方では不足しているというところがありまして、石垣島の会社の方とも提携しておりますが、こういった点もロータリアンの皆さんと情報交換とかさせて頂きながら苑の運営がしっかり行えるように私も務めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。私は今、西表島で単身で暮らしておりますので、慣れない自炊をしていて、食事が充実してなくて、今日は美味しい食事を目の前にしてとても喜んでおります。急な参加でも暖かく迎えていただき、また出来るだけまた顔を出したいと思っておりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

◆◆◆ゲスト卓話：石垣 博孝 氏◆◆◆
【八重山の祭祀・儀礼】について



八重山の祭祀・儀礼というのがあります。ご存じの通り沖縄のなかで最も島が多いのは八重山群島なんですね。島が多い島がそれぞれの個性を持って、そこにおける一つの年中行事になります。祭祀儀礼などがだいぶ変わってきて

他の地域には無いというのが多いです。その中で特色のあるものをいくつかピックアップして皆さんに聞いていただきご覧になって頂きたいと思います。コロナウィルスのなかで豊年祭も無くなると言っていますから残念ですが、来年も再来年もあるので見たことのない人がいれば是非それをご覧になってもらって、これも八重山の特色だと分かって頂けたらいいなというふうに思います。八重山は尖閣を含めると20ぐらいの島からなる八重山の群島と言われているところで、例えば宮古島だとかその他に久米島とかをあげてもこんなに島の数が多いところはないし、また島はそれぞれみんな性格の違うものを持っています。竹富島、黒島、西表、石垣島というようなところがあり、こういうところは色々な面で歴史を顧みたら、結局お米の出来るところと出来ないところがあり、出来ないところの人達はどうしたのかというところと出来る島へ命がけで行っているんです。そこでお米を作って生活していた。彼らは西表島に行って、田んぼを作っていた人たちの話を聞くと鳩間島や竹富島、黒島、新城島などに行くと、それなりのここでしか出来ないような一つの性格を持っているというのは、八重山の特色ではないかと。それに尖閣諸島まで入れると、今はそこには人は住んでいませんけれども一時期、人が住んでいたことがあります。皆さんご存じの方もいらっしゃると思いますけれども、県議員もしていました伊良皆高吉という人がいます。彼は今、関東の方で八重山民謡の教室を開いていて、びっくりするぐらいの弟子達がいます。関東地区に支部もあって約300名から400名ぐらいの弟子達がいます。しかも毎年、講演会をするぐらいの大きな力を持っているということです。八重山の祭りはどういう祭りがあるかという、一番多いのがお米、稲に関することです。最終的には豊年の祈願、ありがとうございました。それが一番大きな行事になると思います。ですから八重山の豊年祭というものが、まず第一に考えた方がいいだろうというふうになります。豊年祭というのは、こっちではプールだとかオンだとかの言葉で言っていますが、島々によって言い方が少しずつ違っていきますけれども、これは収穫儀礼になるそうです。ですから種をまいて育てて刈り取って、ありがとうございましたというふうな感謝儀礼になります。特に豊年祭というのは、原則としてどんなものかという、二日、あるところは三日もありますけれども、一日目は今年取れた物への感謝儀礼、これはそれぞれの村の御嶽で行われるのがオンプール、その翌日にはガラリと変わりまして大変ダイナミックな祭りになっています。オンプールの場合は、それぞれの御嶽で今年取れたお米で作った神酒で儀礼を行うんですけども、翌日は旗頭を立てて賑やかに集います。大綱引きを行ったり、ところによっては船漕ぎというのがあります。黒島、鳩間島あたりは翌日は船を漕ぎます。綱引きはいろんなところで行いますが、綱引きは必ずしも豊年祭に引くのではない。十五夜に引くとこ

ろもあります。いずれにしろ、豊作祈願であるということは確かです。どうして船を漕いだり大きな綱を引いたりするのか。どこから来たのかと言うと中国です。中国の文献などにはちゃんとこれを記したところがあります。荊楚歳時記という本にはちゃんとあり、今ではこういうことは沖縄の各地で見ることには出来ませんが、いろいろな面で見ると、どんなふうに入ってきたかということも沖縄の資料でも見つかります。豊年祭の時に船を漕ぐのは黒島と鳩間島ぐらいですが、この時には船を漕いでただ競争するのではなくて、始まりに走って行って船に乗って競争するというのがあり、現地でご覧になると不思議な感じがします。宮良のアカマタ、クロマタというのは、こっちの言葉で言う赤い面と黒い面です。これはいわゆる未来から来た神様と言われています。アカマタ、クロマタの神に関しては、それを実際に行っている村の人達は一切しゃべりません。ですからこれを取材するのは不可能に近いです。それは黙ってしかるところで見て帰らないといけない。アカマタ・クロマタ・シロマタ、これは西表の古見という所にちゃんとした八重山の記録があります。ある時、急に息子がいなくなります。母親は悲しみに暮れていたんですが、数年経ってから来て、私はあなたの息子です。ご覧になってもぜんぜんあなたの息子だった時の姿形はしていない。現在は神様になって家に帰って来ることはありません。年に一度村をあげて自分を拜んでくれと。それは何になるか？という、豊作の大きな力になるということと言って、それっきりまた翌年まで来ない。現在、古見という村が発祥の地だと言われているようですが、そこでいまだに毎年行っております。その内容やいろんな事については一切よその者には言わないということです。もう一つ伝承があります。ある村の人が漁に出て、風がきて何処に流されたか分からない、南の島のところで流された人々がびっくりしたのは、もの凄く素晴らしい稲を持っている人がいるので、どうしてそんな素晴らしい稲になっているのかと聞くと、村の人は「自分たちは神様を拜んでいるからだ」と「もう少ししたらその祭りになるので、あなた方も一緒に行ってみなさい」と言って連れて行かれたところに神が十体ぐらい出て来ました「こういう神を拜むことによって豊作するのであれば、ぜひ私達にも神様をわけてください」「いや神というのは分けるものではない」こんなに十体もいるからどうかお願いと言うんですが、神を分けるというのは考えられないことで分けられない。彼らはそこで生活をしていましたが、この神の面を収納している洞窟のような所をつきとめることができました。彼らはそこから神を分けて貰う意味で帰って来てそれ以来おこなっているという伝承があるということもあります。いろいろな伝承がありますが、これを確かめることはまず不可能です。島の人にはこれについて一切しゃべりません。この面が現代でも古见到三つ、以前は高那という隣の村にもあったといいますがいまはもうありません。

小浜島そして 1771 年の明和の大津波の時に小浜から村分けしてきた宮良村に現在は残っています。これも素晴らしい大きな力を持った祭りですが、もちろんそこで見ることは出来ませんが、内容は一切調査することは出来ない状況にあります。そういう豊年祭というのはいわゆるニロー神の豊年祭はこちらでいうところのオンプールとムラプールというのがありますが、二日目のプールの時だけこの神様は出てくるということです。今でも秘密裡な神様ということでよく知られてはおりますけれども、大変素晴らしい威厳のある神様であります。それからムラプールで綱引きをするところは何処にもあります。毎年、新川の真乙姥御嶽の近くで行われますが、コロナウィルスの関連で出来なくなって大変残念です。ぜひこれをご覧いただいて、これだけ収穫、稲があるということが命がけのものであるという事を、この祭りをもって見る事が出来るわけです。皆さんもどうぞ、機会をみてご覧になって頂きたいと思えます。これは収穫の時の最終的な儀礼ですけれども、今度は種をまくという儀礼があります。これはぶっ続けですのような竹富島の種取祭があります。これなども稲作儀礼との関わ

りが大きくあります。種をまく、これが無事に育って豊作になるということを祈ります。1 番恐いのは台風です。穂をつけて実る頃に台風がよく来るんです。その時期をどうにか乗り越えるための儀礼をしていきます。儀礼というのはいくつかありますが、お米というのはどこから来たか、初めからそこにあったわけではなく、いろんな伝承を見てもみますと、やはり東南アジアで特にベトナムの安南地区から来たというのはいろんなところの伝承として残っています。私も何度か訪ねましたが、本当に素晴らしい稲なんですね。このあたりで見る稲とはスケールも違うし、いろんな面で素晴らしいと思いました。稲というのは琉球王朝の頃には租税として納めていて、キチッと納めるというのも大変なことなんですね。農民にとっても大事な条件だったわけです。今回は収穫儀礼、豊年祭の事をお話ししましたけれども、とにかく稲が育って実るまでにどれだけの事をしているかという事、そういう儀礼が八重山には沢山あります。儀礼の数、それから尖閣諸島に行ってもここにはない儀礼がたくさんあります。皆さんも八重山の儀礼に親しんで理解していただけたらと思います。

～例会風景～



🎀 バナーのプレゼント!

石垣博孝様 お忙しい中、卓話をいただきましてありがとうございました。
またのご来会、心よりお待ちしております。

本日のニコニコ

- ☆橋本孝来氏: 石垣様、本日は卓話ありがとうございました。
- ☆大田次男氏: 落雷で故障が多発して利用者にご迷惑をおかけしています。復旧にガンバっています。
- ☆上勢頭保氏: 石垣博孝先輩のゲスト卓話に感謝いたします。
- ☆小林昌道氏: 石垣博孝師 大変有難うございました。
- ☆森田安高氏: 今日も!! よろしくお祈りします。
- ☆前木繁孝氏: 石垣の祭祀に興味深く聞かせていただきました。石垣博孝先生ありがとうございました。
- ☆今西敦之氏: 大雨が続きましたね一何か良いことがありますように!!
- ☆新 賢次氏: 石垣博孝先生 本日は卓話有難うございました。

◆BOX ¥8,000 (累計 ¥245,700) ◆コイン ¥3,805 (累計 ¥70,362) 合計 ¥316,062

南波正幸氏・森田安高氏・今西敦之氏・東上里和広氏 ◆60周年記念基金 ¥4,000 累計 ¥22,000

大浜一郎氏 7日(土) 宮良幸男氏 13日(金) 大田次男氏 14日(日) 南波正幸氏 29日(日)

新賢次氏 2日(木) 大城博文氏 25日(土) 大本綾子氏 28日(火)

仁開一夫氏 3日(日) 宮城隆氏 6日(水) 漢那憲隆氏 14日(木) 大浜勇人氏 15日(金) 宮脇秀至氏 25日(月)

新城永一郎氏 10日(水) 前原博一氏 22日(月) 中山義隆氏 26日(金)

